



— 私の履歴書 —

中村工業(株) 専務取締役 中村 安宏



中村 安宏 (なかむら やすひろ)
昭和21年2月9日福岡県生れ
昭和52年4月中村工業(株)入社
平成15年2月専務取締役就任

■郷里・幼年時代・学生時代
福岡市の東区にある、筥崎八幡宮の近くの馬が出ると書いて「まいだし」という所で、三男として生れました。

小学校、中学校と地元の学校を卒業し、思い出として中学校の3年間はバレー部に所属し、汗と涙を流して、青春を謳歌しました。

現在もそのメンバーで同窓会を開き、先生にも来ていただいています。

■社会に出て

卒業と同時に、福岡市にある港湾の埋立事業を営む会社に就職し、公有水面の免許申請関係の業務に携わっていました。その後、土木の会社に入社し、旧建設省の道路改良工事や民間での宅地造成工事等の直接工事に携わり、重機・機械の知識を得ることができました。次に建築関係の仕事に従事することができ、その中で、28職種をマネジメントする、品質管理、工程管理、施工監理と安全に関することを実際経験することができ、その後の私にとって大きなプラスとなりました。昭和52年4月に、祖父の代から続いている兄2人が経営する中村工業(株)に帰ることとなりました。今年で創業104年になり、私達の代で3代目になり、深く歴史の重さを感じているところであります。

■会社の歴史・経営

我社は明治39年祖父重吉が鳶職「中村組」を創業し、昭和25年2代目五郎が株式会社として改名し、昭和45年父の死去に伴い、長兄が社長に就任、現在は次兄が社長をしております。

鳶土工事では、古い歴史を誇っている会社ですが、重機関係は昭和36年三菱油圧掘削機(Y-35)ユンボを導入し、建築工事での根切に活躍しました。その後クローラクレーン、ブルドーザー、バックホー等を会社の発展とともに導入していきました。

基礎工事については、昭和54年ごろより3点杭打機を母機とし、1軸ソイルパイルの山止め壁を施工することになり、高度成長とともに、物件が増加し、4軸ソイルパイルの機械を導入、PD100の杭打機、4軸オーガマシン、自動プラントと購入し、施工にあたってきました。現在はDH608、DH658と3軸、4軸、5軸のオーガマシン、ロックオーガの240HPとそろえて施工にあたっています。

その他の部門として、土木工事、リニューアル工事、解体工事、PCa(プレキャストコンクリート)の製造取付と各種にわたって専門工事業を営んでおります。

また役員に密着したTQM事務室(トータルクオリティマネジメント。総合的品質経営)により、経営品

質の全社的な向上を図っております。

三代目勝重社長の時、平成2年経営会議において、常口頃からの考え方を話し全社員に知らせる手段として下記のような社是・モットーを作成した、創立記念式典他安全大会や諸たる会議前は全員で復唱している。

社 是：

信用を重んじ誠実を旨とする。
仕事を愛し明るい職場で社会に貢献する。
夢と若さで独創的な技術を開発する。
人間尊重の伝統を守り社業の発展を期す。

モットー：

安全に、より良いものを、より安く。
早く楽しく、明るい職場。

■社員とのコミュニケーション

毎年100名以上集まるのが、4月の創立記念日、6月の安全大会、10月の改善事例発表会とあり、創立記念式典後の懇親会で、九州一円より集合した同僚、先輩達と交友を深めています。また2月には、幹部社員60数名を集め1泊2泊で、方針反省及び決定会議を行っており、1泊目の夜は懇親会となり、部門別に渡り意思の疎通を計っています。

■信条・趣味

「他人に誠実であって自分に忠実であれ」という言葉を信条として生きてきました。他人や仕事に対してまじめに、真心をもって接し、自分にはその接した事柄を正確に行うという意味であります。自分一人では生きていけない、他人から生かされているということを常に感謝の念をもって生活をしています。

趣味については、写真を少々現在3台目のD300で季節の風景や孫を撮り、マイカレンダー12ヶ月分を毎年作成しています。

又習字、篆刻も少々、月2回教室に通いながら7年日となり、今では県展の末席に入選するようになりました。スポーツでは、スロージョギングとゴルフをやっています。ゴルフは年40数回ラウンドしています、還暦の年にシングルとなり現在ハンディは8で頑張っています。

■今後の展望

我々専門工事業にとってどう生きていくか問われる時代ですが、我社の伝統と若手の活力を合わせて、他者に先んづる、元請に期待される会社になれるようになること、それには、品質・工期、コスト、安全、人材とを大切に、社内を改革しながら、よりよい会社にしていきたいと思っています。

編集後記

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)